

## ダブルディグリー・プログラムにおける中国人留学生の満足度とその関連要因

氏名 張 慧穎

大学の国際化に伴い、国を越えた学生の移動が加速している。近年、ダブルディグリー・プログラムに代表される国際共同学位プログラムを各国が積極的に導入している。留学生に関する研究は数多く蓄積されつつあるが、ダブルディグリー・プログラムに参加する中国人留学生（以下、DDP 留学生）の日本での留学体験の実態に関する研究はほとんどない。そこで、本研究では、DDP 留学生の留学生活における満足度に焦点をあて、それに関連する要因として、留学中に直面する困難、留学動機、困難への対処方略を取り上げ、彼らの留学生活の実態を検討することを目的とした。

本論文は、序章を除くと、全 10 章から構成される。第 1 章から第 4 章までは文献研究を行い、第 5 章から第 9 章では実証研究、終章において総合的考察を行った。以下では各章の内容について述べる。

第 1 章では、世界の大学の国際化の取り組みとして、国家間の大学の協定による国際共同学位プログラムの実施と発展の現状を概観した。また、その中で最も多く実施されているダブルディグリー・プログラムの現状について述べた。

第 2 章では、世界の留学生数の動向と、日本における留学生の受け入れと留学生を取り巻く異文化環境について概観した。日本文化の特徴と留学に伴うカルチャー・ショック、異文化適応のプロセス、留学生の友人関係、留学生支援のあり方について検討した。

第 3 章では、留学生の満足度とその関連要因に関する研究を中心にその動向について検討した。留学生の直面する困難、留学動機、対処方略に関する研究動向を整理したうえで、留学生は、さまざまな側面において困難を感じているものの、留学体験が自己成長につながることを示唆した。

第 4 章では、本研究と関連する諸理論を取り上げた。ストレス理論と動機に関する理論、対処に関する理論について概観したうえで、本研究における研究課題について述べた。

これらを踏まえ、第 5 章では、DDP 留学生の困難の内容について質的な分析を行った。その結果、困難は、「日本における生活面での不慣れ」、「DDP 参加に関する困難」、「対人関係への不満」、「日本語の運用能力上の困難」、「日本での専門教育への不満」、「DDP 修了後

の進路選択の障壁」の6つのカテゴリーに分類された。DDP 留学生に特有の困難として、来日前のDDPという仕組みに関する情報不足や、専門分野の不一致から生じる不安、DDP 留学生の活動範囲における同期生の多さによって人間関係の幅が狭まることなどが示された。

第6章では、DDP 留学生の留学動機と困難を量的調査により示した。DDP 留学生の困難としては「専門科目に対する不満」、「進路決定に対する困難」、「交友に対する不満」、「単調な生活に対する不満」、「日本語でのコミュニケーションに対する困難」の5因子が見いだされた。留学動機としては、「可能性の探求」、「学歴の向上」、「日本文化理解」、「消極的な選択」、「現実からの逃避」の5因子が得られた。さらに、消極的な留学動機で留学する場合、さまざまな困難を感じやすくなることを明らかにした。

第7章では、DDP 留学生の直面する困難と対処方略との関連を検討した。その結果、DDP 留学生の困難に対処する方略としては、「気分調整」、「問題回避」、「問題解決努力」、「他責化」、「サポート希求」の5因子が抽出された。DDP 留学生は、さまざまな困難を感じる場合、消極的な対処方略を取る傾向があることが示された。

第8章では、DDP 留学生のDDPに対する評価を通して、留学の満足度とその関連要因について質的分析を行った。その結果、留学の満足度が低いことと関連する要因としては、「留学期間の長さ」と「手続きの煩雑さ」が、満足度が高いことと関連する要因としては、「留学体験による自己成長」、「DDPによるキャリア意識の向上」、「DDPというシステムの効率性と利便性」があることが明らかになった。日本への留学の効率性と利便性がDDPの大きな魅力であるため、このメリットを実感しにくくなると全体的留學生活に対する満足度が低下することが示唆された。また、留学体験での自己成長やキャリア意識の向上が満足度の高まりにつながる要因であることが確認された。

第9章では、DDP 留学生の留学効果・総合満足度と困難への対処方略の関連について量的調査により検討した。その結果、留学効果としては、「能力の向上」、「教員との関係の構築」、「グローバル意識の高まり」、「人間関係の充実」、「外国人との交流の達成」の5因子が得られた。困難への対処方略としては、「問題解決努力」、「問題回避(情動)」、「問題回避(行動)」の3因子が見いだされた。さらに、DDP 留学生にとって、「問題解決努力」が、留学効果・総合満足度と関連する重要な要素であることが示された。

終章では、これらの結果を総合的に考察し、DDP 留学生の視点から DDP のメリットとデメリットを述べた。また、DDP 留学生が困難に直面した際の具体的な対処方略を示した。さらに、DDP の改善に向けて、中国と日本の大学それぞれにおける DDP 留学生の教育と支援のあり方について提言した。本研究で得られた結果に基づき、留学満足度の関連要因をさらに多角的に検討することが今後の課題である。